

時代とともに変化する歴史像

50 大磯の高来神社

「高麗」から名称変え今に

様々な記念年に今年も巡り合ったが、^{高麗郡}高麗郡建郡1300年^はは神奈川ゆかりの中では群を抜いて古いものだった。

奈良時代の歴史書はこう記している。

——神奈川など東国一円の高麗人を埼玉県日高市の周辺に集め、716年に高麗郡を設置した——

三国が競合していた朝鮮半島では7世紀の後半、新羅が統一を実現。滅亡した高句麗と百済から多くの人々が日本に渡ってきた。

埼玉に移るまで住んでいた候補が大磯町の高麗山一帯だと聞き、節目の年も暮れようとする師走の1日、その地を巡ってみた。

高麗山は標高168¹/₂呎。
すくつと見上げるように立
ち上がる。

「奈良の神社のような雰
囲気があり、古くから信仰
の場であったことを感しま
す」と山すそにある高来神
社の渡辺幸臣宮司。

その歴史は町郷土資料館
学芸員の富田三紗子さんが

説明してくれた。

高句麗の王族が渡来し大陸の文化を伝えたなどと伝わるが確かな記録はない。長らくは高麗寺というお寺

で、最盛期は鎌倉時代。江戸時代は寺領を持ち、一帯は高麗寺村となり、寺の住職がその村長役だった。

明治維新の神仏分離で、住職が神官となり、高麗神社に姿を変えた。それが1897年に高来神社と名前を変え現在に至る。

改称の理由を伝える記録はないというが、「高麗の名を嫌ったのでしょ」と渡辺宮司。

朝鮮をめぐった日清戦争で日本が勝利したのが1895年。中国の力が後退した朝鮮では、日本に対抗するためロシアに近づく勢力が登場。生き残りをかけて朝鮮が国号を大韓帝国と変えたのが1897年。

千年以上続いた高麗の名前を変えたのは、そんな時期だった。その間、親露派の王妃の殺害にまで踏み出す。思うようにならない朝鮮の姿勢に日本はいら立ちを募らせていた。

うちに1人の人物を思い出した。乙支文徳。中国・隋の大軍を知略で破った高句麗の將軍である。今年夏、北朝鮮を想定し行われた米韓合同軍事演習にも「乙支フリーダムガーディアン」と名を冠していた。

日本でいえば聖德太子の時代の人物だが、早稻田大学の李成市教授によると、救国の英雄、民族の救世主として注目されるようになったのは国の存続が揺らぐ危機の中のことであり、大磯で神社が改称したのとは同じ時期だったという。

はるか古代の歴史。日本ではつながりを消し去ろうとし、朝鮮では救いを見いだそうとしていた。

その後、日露戦争を経て1910年に日本は韓国を併合。すると「昔から日本と朝鮮は一体だった」という視点が登場し、古い朝鮮の痕跡を大事にするようになる。歴史像は時代や社会に応じ変化する。

◆ ◆

視野を広げると、歴史認識の違いはさらに多様だ。

日本でいえば聖徳太子の時代の人物だが、早稲田大学の李成市教授によると、救国の英雄、民族の救世主として注目されるようになったのは国の存続が揺らぐ危機の中のことであり、大磯で神社が改称したのとほぼ同じ時期だったという。

はるか古代の歴史。日本ではつながりを消し去ろうとし、朝鮮では救いを見いだそうとしていた。

その後、日露戦争を経て1910年に日本は韓国を併合。すると「昔から日本と朝鮮は一体だった」という視点が登場し、古い朝鮮の痕跡を大事にするようになる。歴史像は時代や社会に応じ変化する。

視野を広げると、歴史認識の違いはさらに多様だ。



参道の入り口。背後に見えるのが高麗山=いずれも大磯町高麗2丁目

「神奈川の記憶」が50回を迎えた。気づきにくい足元の歴史を掘り起こしてみたいと始めたが、次第にこのジャンヌの研究が気になった。歴史をめぐる国の間や社会内部で争いが続く。「知っていると思うている歴史像の正体」を問うことが必要なだろう。そんなことを考えながら、この作業をもう少し続けます。

高来神社の前には東海道が走る。江戸時代に、そこを通った朝鮮通信使は、日本の文化人にとって憧れの存在だった。

江戸時代の歴史が専門だという富田さんの言葉が記憶に残った。

「かつては朝鮮がもっと
近かったのでしょうね」
まったく同感。なぜ遠く
なったのかを冷静にさぐっ
てゆかなくては。(渡辺延志)

「かつては朝鮮がもっと
近かったのでしょうね」
まったく同感。なぜ遠く
なったのかを冷静にさぐっ
てゆかなくては。(渡辺延志)

「かつては朝鮮がもっと
近かったのでしょうね」
まったく同感。なぜ遠く
なったのかを冷静にさぐっ
てゆかなくては。(渡辺延志)